

キャラクター名
カレブ・クイン

プレイヤー名

シンドローム	ブラックドッグ ノイマン		ワークス	レネゲイドビーイングB	カヴァー	ギャング
	オプショナル		年齢	26	性別	男
覚醒	生誕	衝動	加虐	初期侵食率	44	%
出自	[迫害の歴史]物語	経験	[西部劇]警察署長	邂逅	*****	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	32
肉体	2	0	0			2	行動値	12
感覚	1	1	0			2	(非装備時)	12
精神	4	0	0		4	8	戦闘移動	17
社会	1	0	0			1	全力移動	34

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃	10		RC			交渉		
回避			知覚	1		意志	2		調達		
運転:			芸術:			知識:			情報:	UGN	1
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
ホルトアクションライフル	射撃	8r+10		8		アサルト使用宣言でメダカ射撃命中達成値+5、同メダカ攻撃対象不可

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
メモリー: Dead by Daylight	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
No.05 実験体/ロストバ	P LM63	N		
[迫害の歴史]チャプター: CHAINS OF HATE	P 信頼	N ●嫌悪		
[西部劇]ヘンリー・ベイショア	P 友情	N ●憎悪		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 2 残り財産P: 7

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
ヒューマンズネバー	1	---	常時	至近	自身	自動	RB	
効果: 衝動判定D+LV、侵蝕率影響無、侵蝕率基本値+5								
ブラックマーケット	2	---	常時	至近	自身	自動	---	
効果: 常備化P+[LV*10]、侵蝕率基本値+2								
リジツ:レジエド	3	2	マイナー	至近	自身	自動	RB	
効果: シン中【精神】判定達成値+[LV*2]								
コントロールソート	1	2	メジャー	武器	---	対決	---	
効果: 選<射撃>【精神】判定可能								
雷の残滓	5	2	メジャー	武器	---	対決	---	
効果: 命中時[邪毒:ランク=LV]付与								
アームズリンク	3	2	メジャー	武器	---	対決	---	
効果: 組合判定D+LV								
コンセプト<黒犬>	2	2	メジャー	---	---	---	---	
効果: [シンドローム]C値[-LV(下限7)]								
	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

※RB専用エフェクト取得分30点分を追加【194点(164+30)】で作成、メモリー分はマイナスで調整
EF125(155) + 技能24 + メモリー15

※これは語り継がれているような物語であり、そこから存在が生み出された彼の記憶から抽出されてのものである。
カレブ・クインは、裕福でないアイルランド移民の息子としてアメリカ中西部のほりだらけの荒地で生まれた。辺境の地では病氣、飢餓、そして死が当たり前の光景で、富豪たちが宴に明け暮れる一方で、開拓者たちはどんなくす鉄でさえ手に入れようと争っていた。カレブの父親はかつてエンジニアだったが、どこも「アイルランド人はお断り」と門前払いされ、働き口を選ぶことなどできなかった。

ある日、カレブは何年も使われていなかった父親の古い道具を見つけた。息子が商売に興味を持っていることを知った父は、古いレンチを彼にあげたのだった。父親の教えを受けながら、カレブはユニークな応用を生かした装置を作ったが、父親がいない時に彼はそれを残忍な道具に変えていた。有刺鉄線の針で人間の目をえぐり、眼窩から引き裂くマスクを密かに作ろうとしていたのだ。マスクの図案には、自分をいじめた少年たちが装着した様子が描かれていた。

成長するにつれカレブのエンジニアとしての能力は市場に通用するレベルに達し、雇用主側も差別を忘れ注目した。そして、彼はユナイテッドウエスト鉄道のオーナー、ヘンリー・ベイショアに雇われた。カレブはまず、線路の犬釘を地面に打ち込む銃を開発し、その次に蒸気駆動のトンネル掘削機を作った。ところがベイショアが無関心だったせいで、それらの機械は他の会社から発売されてしまう。カレブから特許が盗まれ売り渡されていたのだ。覚えのある感覚が蘇ってカレブの血の中を駆け巡り、心臓に鋭い痛みを与えた。今でも自分はクズ鉄を手に入れるために必死なのに。金持ちは自分の知的労働から利益を搾取している。怒りに圧倒され、彼はベイショアのオフィスに飛び込み、顔が血まみれになるまで殴りつけた。引き離された彼は上司の腹に特殊な銃を押し付け、引き金を絞った。線路の犬釘が皮膚と内臓を突き抜け、ベイショアはデスクに釘付けになった。

カレブが絞首刑にならずに済んだのは、意外にもベイショアが一命を取りとめたからだ。15年間、カレブは全国で第一号の私設刑務所であるヘルシャー刑務所に収監された。教養のない囚人だらけの要塞で、彼は学のある刑務所長と親しい関係になった。普通ならあり得ないことだ。カレブは刑務所長のために拷問装置を設計し、見返りに他の囚人より多くの食事を与えられた。